

## 「豪雨災害に関する意識」についてのアンケート集計結果

調査時期：平成19年12月

対象者：県政モニター 300人

回答数：233人（回収率77.7%）

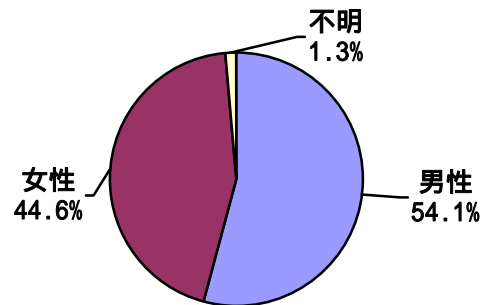
担当課：土木交通部 流域治水政策室

調査目的：県では、洪水に対して人命を守ることを第一に、いかなる洪水に対しても壊滅的な被害を防ぎ、そして被害をできるだけ少なくするため、これまでの川の中の対策だけでなく、川の外での対策を県民のみなさんと協働して実施していく「流域治水対策」を検討しているところです。

県民のみなさんの豪雨災害に関する意識等について把握し、今後の施策検討の参考とするためアンケート調査を実施しました。

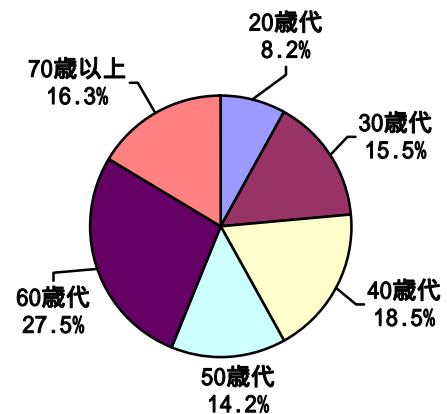
### 問1 あなたの性別を教えてください。

項目	人数(人)	割合(%)
男性	126	54.1
女性	104	44.6
不明	3	1.3
合計	233	100



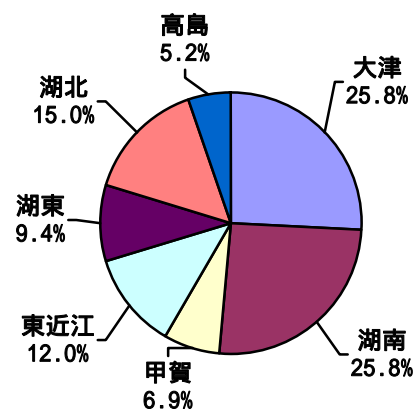
### 問2 あなたの年齢を教えてください。

項目	人数(人)	割合(%)
20歳代	19	8.2
30歳代	36	15.5
40歳代	43	18.5
50歳代	33	14.2
60歳代	64	27.5
70歳以上	38	16.3
合計	233	100



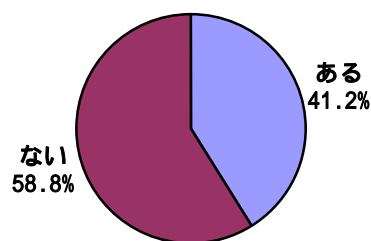
### 問3 あなたのお住まいの地域を教えてください。

項目	人数(人)	割合(%)
大津地域	60	25.8
湖南地域	60	25.8
甲賀地域	16	6.9
東近江地域	28	12.0
湖東地域	22	9.4
湖北地域	35	15.0
高島地域	12	5.2
合計	233	100



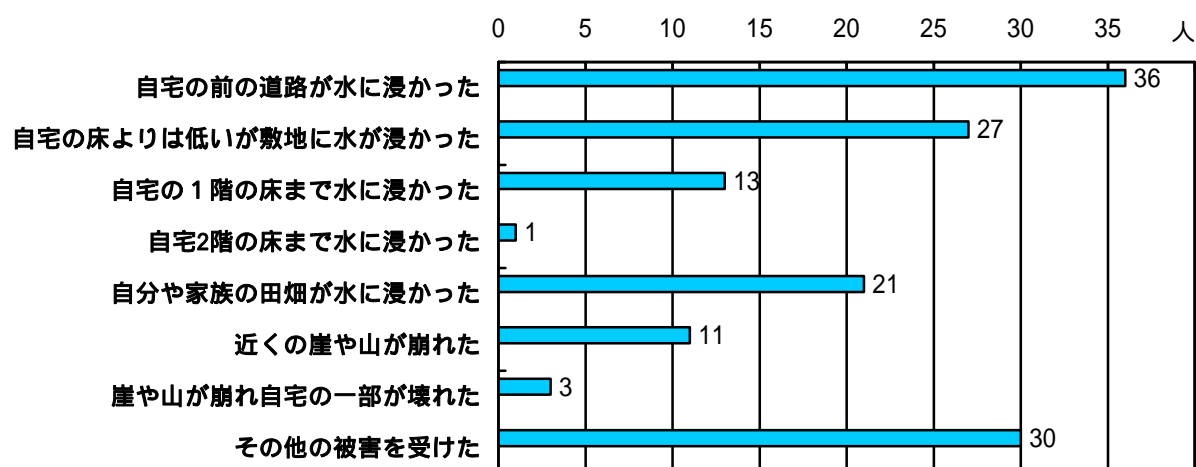
問4 あなたは過去に豪雨（台風を含む）によって被害を受けたり、危険を感じたりしたことはありますか。

項目	人数(人)	割合(%)
ある	96	41.2
ない	137	58.8
合計	233	100



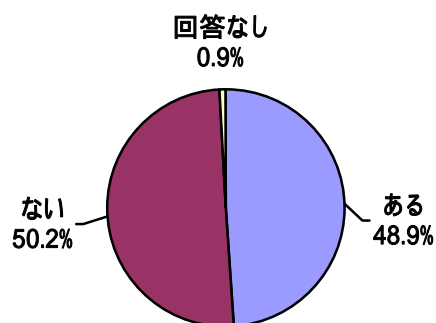
問5 問4で「ある」と回答された方にお聞きします。その時の状況はどのようなものでしたか。（はいくつでも）

項目	人数(人)	割合(%)
1. 自宅の前の道路が水に浸かった	36	37.5
2. 自宅の床よりは低い敷地に水が浸かった	27	28.1
3. 自宅の1階の床まで水に浸かった	13	13.5
4. 自宅2階の床まで水に浸かった	1	1.0
5. 自分や家族の田畑が水に浸かった	21	21.9
6. 近くの崖や山が崩れた	11	11.5
7. 崖や山が崩れ自宅の一部が壊れた	3	3.1
8. その他の被害を受けた	30	31.3



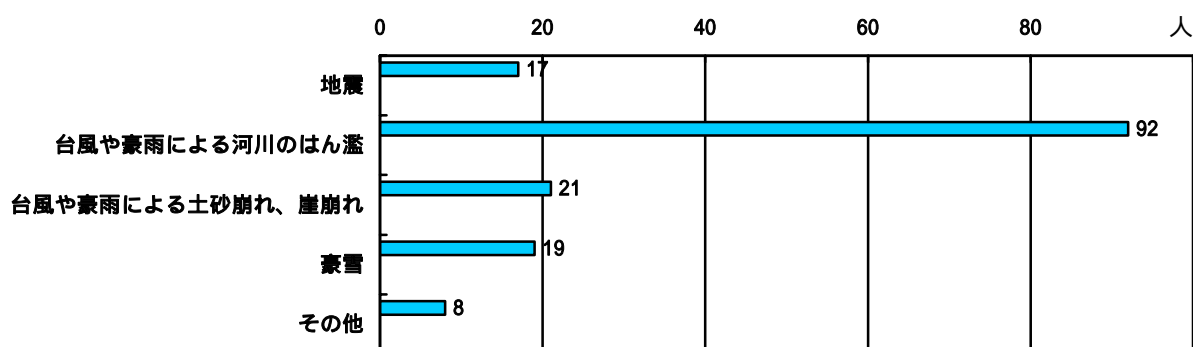
問6 あなたは今住んでおられる地域で起きた過去の自然災害（被害）の話を、人から聞かれたことはありますか。

項目	人数(人)	割合(%)
ある	114	48.9
ない	117	50.2
回答なし	2	0.9
合計	233	100



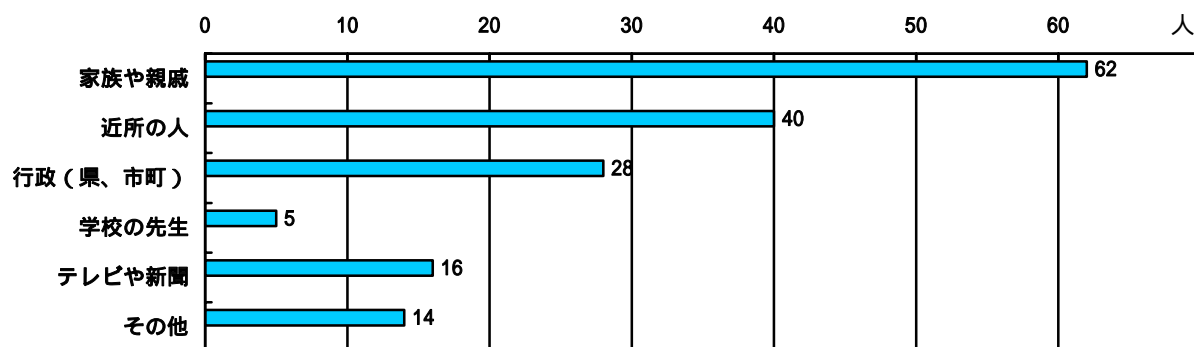
問7 問6で「ある」と回答された方にお聞きします。それはどのような自然災害でしたか。(はいいくつでも)

項目	人数(人)	割合(%)
1.地震	17	14.9
2.台風や豪雨による河川のはん濫	92	80.7
3.台風や豪雨による土砂崩れ、崖崩れ	21	18.4
4.豪雪	19	16.7
5.その他	8	7.0



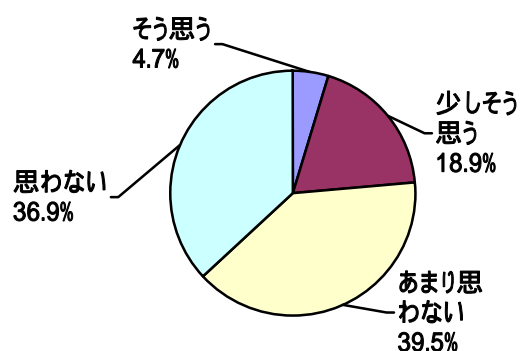
問8 問6で「ある」と回答された方にお聞きします。それは誰から聞かれた話ですか。(はいいくつでも)

項目	人数(人)	割合(%)
1.家族や親戚	62	54.4
2.近所の人	40	35.1
3.行政(県、市町)	28	24.6
4.学校の先生	5	4.4
5.テレビや新聞	16	14.0
6.その他	14	12.3



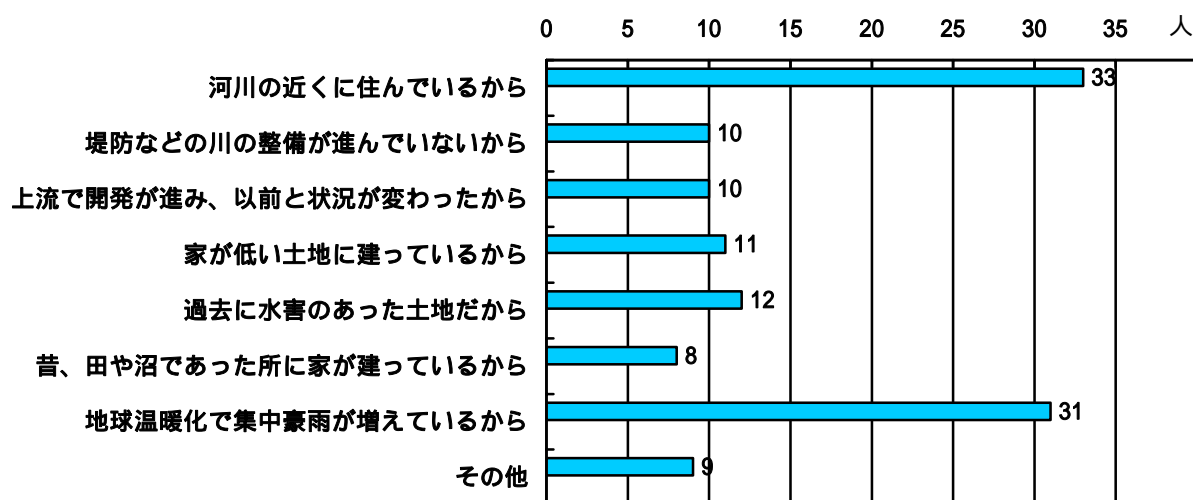
問9 あなたは、今お住まいの家が今後10年以内に洪水による被害を受けると思われますか。

項目	人数(人)	割合(%)
1. そう思う	11	4.7
2. 少しそう思う	44	18.9
3. あまり思わない	92	39.5
4. 思わない	86	36.9
合計	233	100



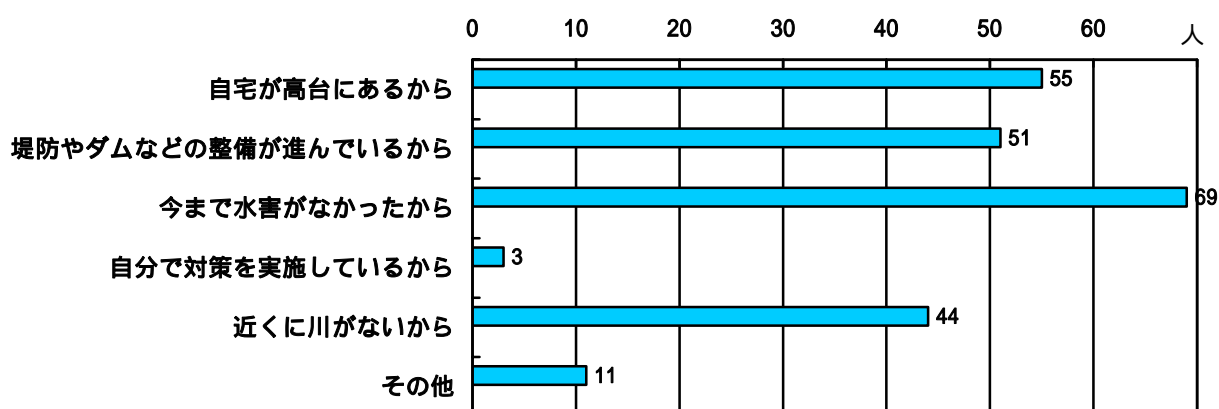
問10 問9で「そう思う」「少しそう思う」と回答された方にお聞きします。それはどのような理由からですか。(はいくつでも)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 河川の近くに住んでいるから	33	60.0
2. 堤防などの川の整備が進んでいないから	10	18.2
3. 上流で開発が進み、以前と状況が変わったから	10	18.2
4. 家が低い土地に建っているから	11	20.0
5. 過去に水害のあった土地だから	12	21.8
6. 昔、田や沼であった所に家が建っているから	8	14.5
7. 地球温暖化で集中豪雨が増えているから	31	56.4
8. その他	9	16.4



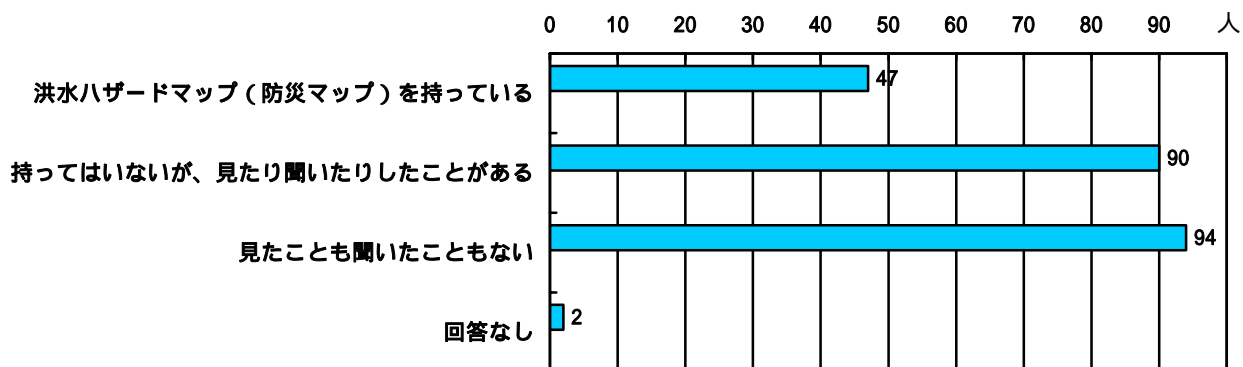
問11 問9で「あまり思わない」「思わない」と回答された方にお聞きします。それはどのような理由からですか。(はいくつでも)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 自宅が高台にあるから	55	30.9
2. 堤防やダムなどの整備が進んでいるから	51	28.7
3. 今まで水害がなかったから	69	38.8
4. 自分で対策を実施しているから	3	1.7
5. 近くに川がないから	44	24.7
6. その他	11	6.2



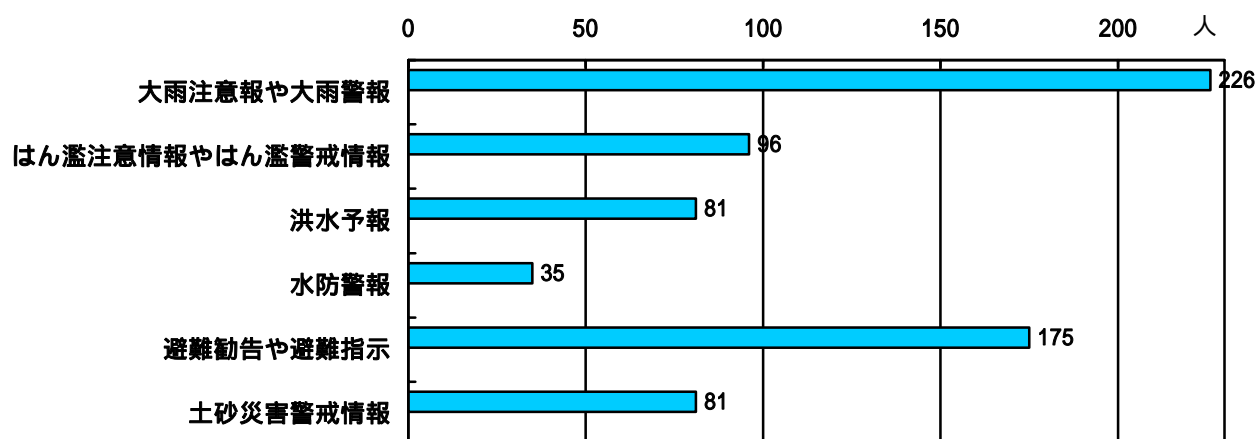
問12 浸水が予想される区域を示すものとして、「浸水想定区域図」や「洪水ハザードマップ(防災マップ)」がありますが、あなたはこのような地図を見たり、聞いたことありますか。

項目	人数(人)	割合(%)
1. 洪水ハザードマップ(防災マップ)を持っている	47	20.2
2. 持ってはいないが、見たり聞いたことがある	90	38.6
3. 見たことも聞いたこともない	94	40.3
回答なし	2	0.9
合計	233	100



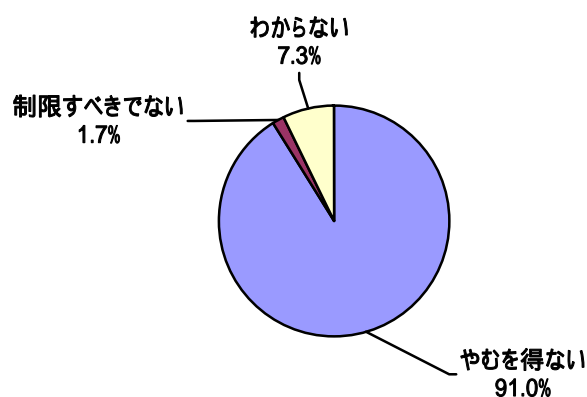
問13 水害や土砂災害の発生する危険性が高くなった時に出る情報のうち、あなたが知っているものすべてに をしてください。

項目	人数(人)	割合(%)
1.大雨注意報や大雨警報	226	97.0
2.はん濫注意情報や、はん濫警戒情報	96	41.2
3.洪水予報	81	34.8
4.水防警報	35	15.0
5.避難勧告や避難指示	175	75.1
6.土砂災害警戒情報	81	34.8



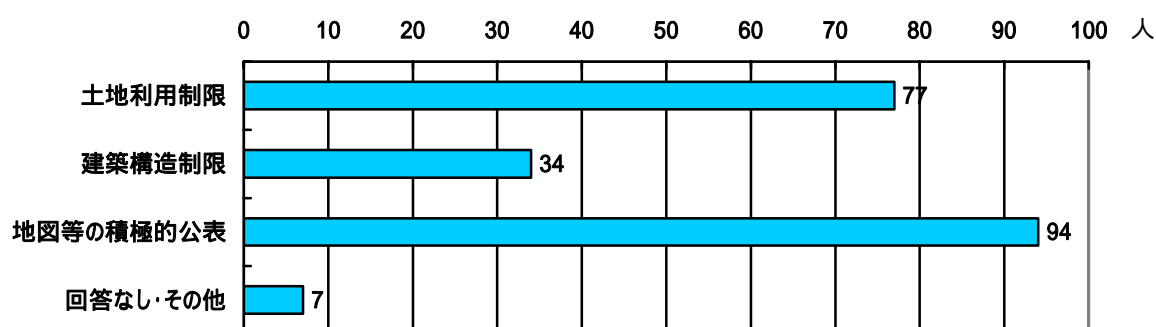
問14 水害による被害をできるだけ少なくする方法として、上流の農地や森林の開発を制限したり、下流の低地に建物を建設しないよう制限することが考えられますが、あなたはこのような土地の利用制限についてどう思われますか。

項目	人数(人)	割合(%)
1.被害を少なくするための制限なら、やむを得ない	212	91.0
2.制限はすべきでない	4	1.7
3.わからない	17	7.3
合計	233	100



問15 問14で「やむを得ない」と回答された方にお聞きします。土地利用制限を強めるためにはどうしたらよいと思いますか。この中からあなたの考えに近いものを選んでください。

項目	人数(人)	割合(%)
1. 水害の危険性に応じて土地利用を制限し、浸水の危険性が高い場所には住まないような制度を作る	77	36.3
2. 水害の危険性に応じて建築の構造を制限し、万一浸水したとしても被害が少なくなるような制度を作る	34	16.0
3. 水害の危険性が高い場所を示す地図などを積極的に公表することにより、危険性が高い場所に住まないよう土地利用を誘導する	94	44.3
回答なし・その他	7	3.3
合計	212	100

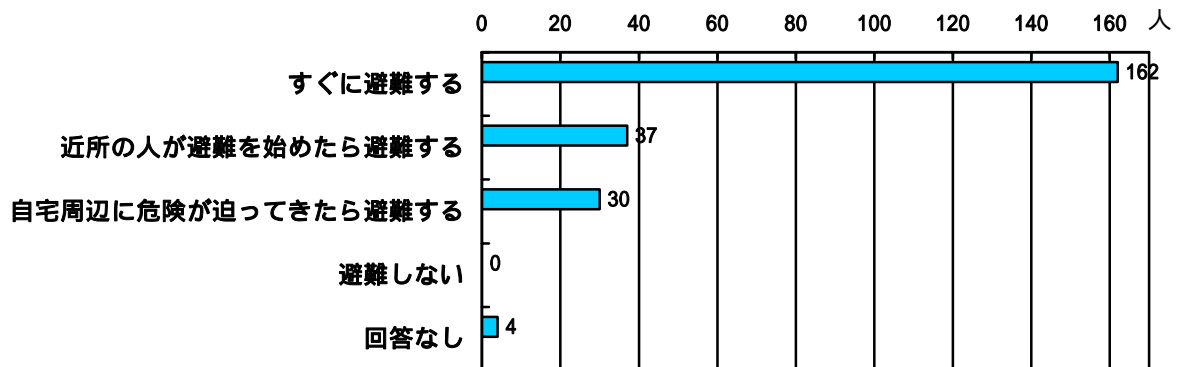


問16 問14で「規制はすべきではない」と回答された方にお聞きします。そのように思われる理由はなんですか。この中からあなたの考えに最も近いものを選んでください。

項目	人数(人)	割合(%)
1. 現在の制度で十分だから	1	25.0
2. 個人の財産を制限すべきでないから	2	50.0
3. 被災した場合でも個人が責任を負えばよいから	0	0.0
4. その他	1	25.0

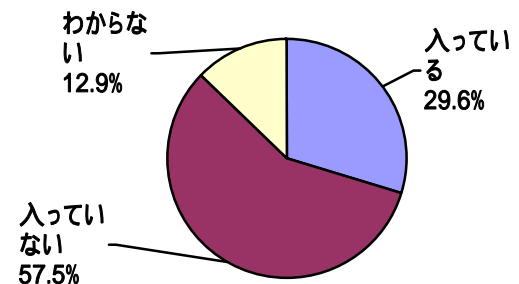
問17 水害や土砂災害の危険性が高くなり、市町から避難勧告が出された場合、あなたはどのような行動をとると思われますか。この中からあなたの考えに最も近いものを選んでください。

項目	人数(人)	割合(%)
1. すぐに避難する	162	69.5
2. 近所の人が始めたなら避難する	37	15.9
3. 自宅の周辺に危険が迫ってきたら避難する	30	12.9
4. 避難しない	0	0.0
回答なし	4	1.7
合計	233	100



問18 あなたは水害や土砂災害に備えた保険（住宅総合保険等）に入られていますか。

項目	人数(人)	割合(%)
1. 入っている	69	29.6
2. 入っていない	134	57.5
3. わからない	30	12.9
合計	233	100

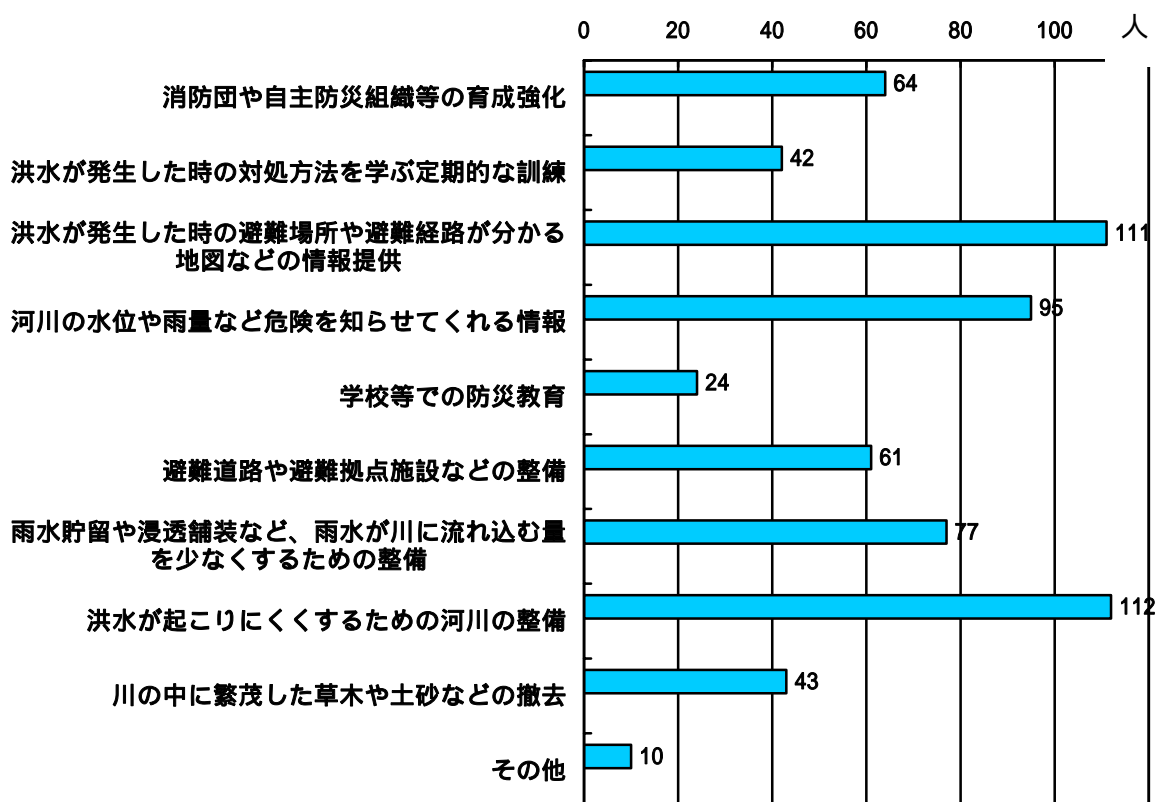


問19 洪水から命や財産を守るため、あなたは県や市町の行政に対してどのような取り組みを望まれますか。重視して進めるべきだと考えるものを3つ選んでください。

項目	人数(人)	割合(%)
1. 消防団や自主防災組織等の育成強化	64	27.5
2. 洪水が発生した時の対処方法を学ぶ定期的な訓練	42	18.0
3. 洪水が発生した時の避難場所や避難経路が分かる地図などの情報提供	111	47.6
4. 河川の水位や雨量など危険を知らせてくれる情報	95	40.8
5. 学校等での防災教育	24	10.3



6．避難道路や避難拠点施設などの整備	61	26.2
7．雨水貯留や浸透舗装など、雨水が川に流れ込む量を少なくするための整備	77	33.0
8．洪水が起こりにくくするための河川の整備	112	48.1
9．川の中に繁茂した草木や土砂などの撤去	43	18.5
10．その他	10	4.3



問20 水害や土砂災害の被害を少なくするため、個人や地域ではどのようなことに留意する必要があると思いますか。意見があればお書きください。

(主な意見)

【個人で留意すること】

- ・新築の際は、建てる場所や形、材料等に気を付ける。
- ・河川の近くや低地に住んでいる場合は、いつでも避難できるよう日頃から持ち出し袋などの準備や、家族とどこで落ち合うか避難場所を決めておく。
- ・地域で水害があったことを家庭内で話し、被害があるかもしれないことを子供に話す。
- ・老人が見回りに行って被害にあうことがあるので、自分の行動について慎重な態度が求められる。
- ・崖などに家を建てない。なるべく川より高いところに家を建てる。土砂災害にあっても被害を受けない家を建てる。

- ・暴風雨警報などが出たときは絶対室外に出ない。
- ・ふだんから川などに注意し、気象情報や避難勧告により早めに避難する。
- ・自主防災訓練に家族で積極的に参加する。
- ・雨水を一時的に蓄える。敷地を全面コンクリートでおおわない。植物を出来るだけ育てる。
- ・身近な排水溝の泥上げや清掃、草刈り作業

#### 【地域で留意すること】

- ・1人で避難できない避難困難者リストの作成と保管。
- ・非常時に対する連絡網、受けたところからすぐ対処できる体制づくり。
- ・自警団活動の教育訓練や地域を守るための組織づくり
- ・防災組織の強化と、地域ぐるみの防災勉強会や防災訓練
- ・情報を伝え合う地域のコミュニケーションが大切
- ・町内の連絡網の作成と、全員に連絡がいくシステムの構築
- ・日頃から近所で声をかけ合い、いざという時に助け合いができるように。
- ・自然を守る活動（里山の保全、休耕田の活用、森林保全等）
- ・里山や森林への関心を広げる。
- ・地域の防災マップを作成し、最悪の事態に備える。

#### 【その他】

- ・避難場所を明示した立て看板を設置する。
- ・危険箇所については、行政が積極的な改善を試みるか、付近住民の転居などを促し、場合によっては補助金を出すことを考える。
- ・上流の農地や森林の開発（乱開発）の対策をまずきちんとする。
- ・洪水の発生予想や対応策について、行政と住民が情報共有する。
- ・学校で防災教育をするために教育者への教育を行う。
- ・道路を水がしみ込みやすいように工夫したり、水の逃げ道を考えた道路工事に心がける。
- ・危険な箇所を地域で話し合い、行政に働きかけ相談会をもってアイデアを出し合う。
- ・減災は自然に逆らわずにがモットー。大自然の関わりをもう一度見つめ直す。
- ・川底面より低い土地に住宅建築の許可をしない。（市街化調整区域に指定）
- ・河川敷の清掃を定期的実施して災害に備える。